

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	当院で使用した医療用麻薬の傾向と問題点
演者名	平山将司 伊藤由恵 富山由季子 野田知宏 石賀丈士
所属	いしが在宅ケアクリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5
目的 当院は末期癌患者に対する在宅ホスピスを中心とした在宅支援診療所である。患者の 6 割が末期癌患者であり、医療用麻薬を用いた緩和ケアに取り組んできた。多くの症例を経験したことから、今回これまで使用した医療用麻薬の種類や量について集計し、傾向ならびに改善点を検討した。 方法 平成 24 年 4 月～平成 26 年 9 月に末期癌にて在宅看取りとなった 345 人(平均年齢 73.7 歳)を対象とした。この 345 人について当院初診から看取りまでの期間(中央値 33 日)に使用した疼痛緩和薬の種類、量を調べた。 結果 345 例のうち、レスキューを含む医療用麻薬を使用したのは 237 例(68.7%)であった。一方、全く疼痛緩和薬を使用しなかった例は 85 例(24.6%)であり、残り 23 例(6.7%)は NSAIDs 等の非医療用麻薬のみを用いていた。 使用した徐放性麻薬は形状別に、経口薬 59 例、注射薬 4 例、貼付剤 211 例であった。経口薬の内訳はモルヒネ 6 例、オキシコドン 50 例、リン酸コデイン 3 例、貼付剤の内訳はフェンタニル 1 日用テープ 134 例、フェンタニル 3 日用テープ 77 例であった。高用量を使用した例として、フェンタニル 1 日用テープ 46mg があつたが、徐放性麻薬使用者全体の 82.5%がフェンタニル 1 日用テープ換算 4mg 以内にてコントロールが得られていた。 またレスキュー使用例は 204 例で、うちわけはオキノーム®117 例、オプソ®68 例、アンペック®28 例であった。 考察 貼付剤の使用が群を抜いて多いことが分かった。看取り近くになって開始となったり増量される例が多かったが、比較的早期で経口摂取に問題がない時点で選択される例も多数みられた。経口麻薬使用者においても 59 例中 46 例が途中で貼付剤へ変更されていた。経口摂取困難や服薬コンプライアンスを考慮すると貼付剤は大変使用しやすいが、各種経口麻薬の特長を活かしきれていないと思われた。		